

医療分野等における ICT 活用に向けて

2010.4.16 kajiura

1. ICTに期待されること

- ニーズに対するサービスの偏在を解消
- リアルタイム性を活かした迅速なサービス供給
- 大量データの蓄積・分析によるサービスの高度化
- サービス及びこれに付帯する業務の効率化

ICTを活用した医療分野等の関連サービスが、事業として成り立つ条件とは？

2. 関連サービスの可能性

仮想的に以下のような関連サービスを考え、それが成り立つ条件を議論させていただきたい。

サービス	内容	諸条件・課題
個人医療 コンサル	インターネットや電話で個人の相談を受け、状況に即した診療機関などを紹介する	<ul style="list-style-type: none"> ・依頼者からの TRUST を受けられること ・診療機関等の現況を把握するための情報開示 ・紹介が不適切だった場合の保証問題 ・診療機関から「紹介料」を受けられるか？
読影画像 スクリー ニング	CT スキャンの画像などを自動識別し、疾病の可能性あるものを選別する	<ul style="list-style-type: none"> ・読影アルゴリズムの開発 ・大量画像処理や伝送にかかるコスト ・画像スクリーニングサービス事業者の資格要件 ・疾病を見逃した場合の保証問題
EHR 管理	モニタ機器を用い患者の状況をセンサして診療機関が参照する EHR を更新する	<ul style="list-style-type: none"> ・EHR そのものの標準化 ・EHR 管理サービス事業者の資格要件 ・モニタ機器の診療機器としての認定
診療報酬 情報活用 (1)	診療報酬請求書情報を匿名化して分析、地域特性や年齢性別に拠る特性を知識化する	<ul style="list-style-type: none"> ・知識化の結果を購入する機関の存在と対価 ・診療報酬情報を活用できる規制緩和 ・大量の機微情報の分析、管理のためのコスト
診療報酬 情報活用 (2)	個人に着目して疾病の変化と処方の関係、その他の属性から見た健康状態等の改善をアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・依頼者（個人もしくは健保組合）からの TRUST を受けられること ・診療報酬情報を活用できる規制緩和 ・より機微な情報の管理にかかるコスト
ゲノム 情報活用	個人のゲノム情報を預かり将来かかる可能性の高い疾病の事前対策などをアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・依頼者からの TRUST を受けられること ・ゲノム情報と疾病の関係などに関する研究開発 ・最も機微な情報を守る運用体制にかかるコスト

以上